

## 第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人岩手大学

### 1 全体評価

岩手大学は、教養教育と専門教育の調和に基づく人材育成と、基礎研究と応用研究の調和による学術文化の創造に努める一方、それら教育研究成果の社会的還元によって地域社会と国際社会の文化の向上・発展に貢献することを目指し、「岩手の“大地”と“ひと”と共に」をキャッチフレーズとして掲げ、地域社会に開かれた大学づくりを推進している。

中期目標期間の業務実績の状況は、平成16～19年度までの評価では、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が「非常に優れている」ほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」であり、さらに平成20、21年度の状況を踏まえた結果、「業務運営の改善及び効率化に関する目標」の項目で中期目標の達成状況が「非常に優れている」ほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が「良好」又は「おおむね良好」である。業務実績のうち、主な特記事項は以下のとおりである。

教育については、岩手大学生による岩手大学及び地域に根ざした独創的な課題探求プロジェクトである「Let's びぎんプロジェクト」を推進し、報告会の開催等を大学側が積極的に支援するなど、着実に取り組んでいる。

研究については、地域連携推進センターが中心となって、学学連携や産学連携による複数のプロジェクトを推進するとともに、多くのベンチャー企業を立ち上げ、研究成果の社会還元成果を上げている。

社会連携については、地域連携推進協議会を立ち上げ地域貢献事業を推進し、その活動を踏まえ「いわて未来づくり機構」の設立に発展するとともに、岩手ネットワークシステム等各種のネットワークと連携して研究会活動を実施するなど、成果を上げている。

業務運営については、教員、事務職員、専門職員、技能職員、医療職員及び附属学校教員について人事評価実施要領に基づき人事評価を実施し、これらの評価結果を処遇に反映しており、評価できる。また、教育研究指導等の社会のニーズに機動的な対応を図るため、教員組織を学部・研究科の枠組みを超えた「学系」に一元化し、全教員の学系所属と学部・研究科担当を決定するとともに、「学系」の設置に伴う経費等の配分による研究成果を外部資金の獲得につなげるなど、組織再編の成果を上げている。

その他業務運営については、環境マネジメント学生委員会と環境マネジメント推進室の協働による省エネルギー、省資源の啓発活動及び環境保全活動の結果、全国青年環境連盟（エコ・リーグ）による大学の環境対策を点数化したランキング「エコ大学ランキング」で平成21年度に全国国公立大学総合1位を獲得している。また、東京都内の中小企業の技術力向上のために「ものづくり夜間大学」を開講し、企業への訪問技術相談等の連携強化に努めるとともに、地域農業の発展のための「いわてアグリフロンティアスクール」等を継続的に実施するなど、地域社会の要請等を考慮した取組を行っている。

## 2 項目別評価

### I. 教育研究等の質の向上の状況

#### (I) 教育に関する目標

##### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

##### 2. 各中期目標の達成状況

###### ① 教育の成果に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「広範な学問諸分野の授業科目及び学際的・総合的な授業科目を開設する」及び「基礎ゼミ等の転換教育を全学的に実施する」について、21世紀型市民の養成を目標とした教養科目や基礎ゼミナールの導入により、学生の調査発表能力等の学習スキルの向上が見られることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画「就職及び進学等の進路指導について、指導教員と協力する支援体制を整備する」について、進路相談室の開設、教員採用セミナー、就職フォーラムや企業合同説

明会の開催及び企業訪問等を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

### (平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況)

- 平成16～19年度の評価において、  
中期計画「博士課程への進学率向上（定員増）を図る」について、  
連合農学研究科の定員充足率が大幅に超過している状況が続いていることから、  
改善することが望まれる  
と指摘したところである。  
平成20、21年度においては、連合農学研究科において、平成21年度の社会人学生  
に対応した入学定員の改訂（8名の定員増）を行ったことで、定員超過率が抑制され  
ていることから、当該中期計画に照らして、改善されていると判断された。

### (顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「博士課程への進学率向上（定員増）を図る」について、平成16～19年  
度の評価においては、連合農学研究科の定員充足率が大幅に超過している状況が続い  
ている点で「不十分」であったが、平成20、21年度の実施状況においては改善されて  
おり、「おおむね良好」となった。（「平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要す  
る点」の改善状況」参照）

## ② 教育内容等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定  
められている具体的な目標（8項目）のうち、3項目が「良好」、5項目  
が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね  
良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「良好」、5  
項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の  
現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、  
総合的に判断した。

### <特記すべき点>

#### (優れた点)

- 中期計画「ホームページ及び高等学校訪問等による広報活動を充実し、アドミッショ  
ン・ポリシーの周知に努め、また、大学開放等を通じて本学の特色の周知に努める」に  
ついて、教職員による東北各県や北海道・関東地方等の高等学校訪問の実施等により、  
オープンキャンパスの参加者数が年々増加していることは、優れていると判断される。

#### (特色ある点)

- 中期計画「ボランティア等課外活動の単位化を検討する」について、ボランティア活  
動等の単位化を実施していることは、特色ある取組であると判断される。

## ③ 教育の実施体制等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

**<特記すべき点>****(優れた点)**

- 中期計画「大学教育総合センターに教職員を配置し、全学共通教育企画・実施部門、教育評価・改善部門及び専門教育関係連絡調整部門を設ける」について、大学教育センターを大学教育総合センターへと拡充し、入試部門、学生支援部門及び就職支援部門を加えてセンターの体制を強化、充実させ、教育機能の向上につなげていることは、優れていると判断される。

**(特色ある点)**

- 中期計画「東北地域の特色を生かした国際水準規模の獣医学教育の体制を整備する」について、農学部附属動物医学食品安全教育研究センターを設置し、卒後教育の一環として獣医師等を対象とした研修会を継続して実施していることは、特色ある取組であると判断される。

**④ 学生への支援に関する目標****【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

**<特記すべき点>****(優れた点)**

- 中期計画「Let's びぎんプロジェクト（学生の創造的グループ活動）の推進を図る」について、岩手大学生による岩手大学または地域に根ざした独創的な課題探求プロジェクトである「Let's びぎんプロジェクト」を推進し、報告会の開催等大学側が積極的に支援して効果的に実施していることは、優れていると判断される。

**(特色ある点)**

- 中期計画「学生支援体制を整備する」について、大学が独自に設けた「がんちゃん

奨学資金貸与制度」は、特色ある取組であると判断される。

## **（Ⅱ）研究に関する目標**

### **1. 評価結果及び判断理由**

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

（参考）

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

### **2. 各中期目標の達成状況**

#### **① 研究水準及び研究の成果等に関する目標**

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### **<特記すべき点>**

##### **（優れた点）**

- 中期計画「競争的外部研究費を投入した学学連携や産学連携によるプロジェクト型研究を行う」及び「岩手ネットワークシステムと協力し、ベンチャー支援事業を立ち上げ、研究成果を社会に還元する」について、地域連携推進センターが中心となって、学学連携や産学連携による複数のプロジェクトを推進し、また、多くのベンチャー企業を立ち上げ研究成果の社会還元に成果を上げていることは、優れていると判断される。

#### **② 研究実施体制等の整備に関する目標**

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」

の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### （優れた点）

- 中期計画「地域連携推進センターが中心となって知的財産の創出、取得、管理及び活用を図る」について、地域連携推進センターが中心となって、知的財産取得等による技術移転収入で高い実績を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「研究における評価は、著書、論文、サイテーション数、特許、外部研究費等に関する実績等で行う」及び「上位評価者については、教育活動の評価結果を考慮し、優先してサバティカルを与える」について、教員評価の結果を研究費の配分やサバティカルの人選に適用する制度を構築したことは、優れていると判断される。

#### （特色ある点）

- 中期計画「教育研究及び大学間連携や産学連携によるプロジェクト型受託・請負型研究のための施設設備の活用・整備は、戦略的・重点的に行う」について、研究開発機能やリエゾン、インキュベーション機能の強化等を実施して地域貢献を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。

## （Ⅲ）その他の目標

### （1）社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

（判断理由） 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

#### 2. 各中期目標の達成状況

##### ① 社会との連携、国際交流等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、2 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

**<特記すべき点>****(優れた点)**

- 中期計画「大学による地域貢献の実施体制の強化を図るため、『地域連携推進協議会（仮称）』を新たに設立する」及び「岩手ネットワークシステム、岩手農林研究協議会、岩手県教育研究ネットワーク等との連携による研究会活動を強化する」について、地域貢献の実施体制の強化を目的として、地域連携推進協議会を立ち上げ地域貢献事業を推進し、その活動を踏まえ「いわて未来づくり機構」の設立に発展したこと及び岩手ネットワークシステム等各種のネットワークと連携して研究会活動を実施していることは、優れていると判断される。

**(特色ある点)**

- 中期計画「友好協力協定市を中心にサテライトキャンパスの設置を推進する」及び「民間企業及び地域研究機関等との共同研究及び人的交流を推進する」について、釜石市等の協定市を中心にサテライトキャンパスの整備を行い、また、多くの産学連携支援組織と共同研究を意欲的に行っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「共同研究及び国際貢献事業に重点を置いた、中国清華大学との UURR（大学・大学と地域・地域）連携事業及び中国北京大学との西部大開発事業などの国際交流を推進する」について、平成 20、21 年度の実施状況においては、UURR 事業の一環として岩手大学と大連理工大学による共同設置の「大連理工大学・岩手大学国際連携・技術移転センター」のプラットフォーム構築事業について、中国国家外国専門家局・大連市外国専門家局の採択を受けたことは、特色ある取組であると判断される。（平成 20、21 年度の実施状況を踏まえ判断した点）

**(顕著な変化が認められる点)**

- 中期計画「地域在住の外国人に対する日本語教育の事業化を進める」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「日本語学習支援ネットワーク」事業が、学習支援活動やウェブサイトによる情報発信等を行い着実に活動してきたこと、また、東北地域の大学と開催した日本語学習支援ネットワーク会議に毎年多くの参加者があり、東北地域の支援者ネットワークを強化したことから、「良好」となった。

**(2) 附属学校に関する目標**

教育学部附属学校園は、大学・学部の教育研究目標に適合した学校運営及び地域連携

と国際化を視野に入れた学校運営の推進を目指すとともに、「インクルージョン・プラン」を策定し、教育学部・附属学校・地域社会・保護者の連携・協力の強化に取り組んでいる。

例えば、中国北京大学附属小学校と毎年度相互交流を実施するなど、外国の学校との連携協力関係を構築し国際理解教育の推進を図っている。また、特別支援教育センター「心と発達の相談室」や地域幼児教育センター「すくすく」の設置により地域における相談活動にも取り組んでいる。

また、4年一貫、6年一貫の教育実習システムの実施に向けて、「実習システム検討特別委員会」を設置し、大学院生を附属学校長期インターンシップとして派遣するなど、学部との組織的連携の下、教員養成カリキュラムの改革に積極的に取り組んでいる。

平成16～21年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「教育学部と附属学校との有機的な一体化」、「4つの附属学校間の有機的な一体化」、「教育学部・附属学校と地域社会との有機的な連携」を柱としたインクルージョン・プランの実行計画を作成し、平成19年度には、「実践的指導力の育成を目指す教員養成改革プロジェクト」等の学部・附属学校の共同研究事業を実施しており、学部教員・保護者・地域との連携の上、教育・交流活動のさらなる推進が期待される。
- 教員養成カリキュラム改革を実施するため、附属学校を含めた「実践的指導力の育成をめざす教員養成改革プロジェクト推進委員会」を平成18年度に設置している。また、4年一貫・6年一貫教育実習システムの実施に向けて「実習システム検討特別委員会」を設置し、大学院生を附属学校長期インターンシップとして附属小学校へ受け入れ、研究授業及び授業検討カンファレンスを実施している。
- 岩手県内の若手教諭が優れた授業実践に学び合う機会の拡充を図るため、附属小・中学校の教諭が盛岡教育事務所から「授業力向上アドバイザー」に委嘱され、地域の教諭からの相談への対応、学校訪問指導、各学校校内研究会での助言等、地域の若手教諭の授業力向上の取組に貢献している。



## Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

- ①運営体制の改善、②教育研究組織の見直し、③人事の適正化、
- ④事務等の効率化・合理化

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 18 年度より、教員については、岩手大学教員評価指針等に基づき部局による一次評価、全学での二次評価を実施したほか、事務職員、専門職員（事務系・技術系）、技能職員、医療職員及び附属学校教員についても人事評価実施要領に基づき人事評価を実施し、これらの評価結果を昇給等の処遇に反映しており、評価できる。  
その後も、教員評価の評価領域のうち、「大学運営活動」の見直しや、教員評価結果の概況についてウェブサイト上に公表するなどの取組が行われている。
- 教育研究指導等の社会のニーズに機動的な対応を図るため、教員組織を学部・研究科の枠組みを超えた「学系」に一元化し、全教員の学系所属と学部・研究科担当を決定するとともに、「学系」の設置に伴う学系基盤経費及び学系プロジェクト経費等の配分による研究成果を外部資金の獲得につなげるなど、組織再編の成果を上げている。
- 学生の意見やニーズをくみ上げる機会として、学長と卒業・修了生、学長と留学生との懇談会及び昼食会（ガンチョンタイム）を開催し、「外国人留学生のよりよい学習環境構築のために」、「岩手大学への提言」等をテーマに懇談し、懇談内容を参加者間で共有することにより、学生相談窓口の周知用動画を学生と職員の協働で作成し、入学式で上映するなど、大学運営の改善に結びつけている。
- 財務・労務担当理事の下に人事労務企画室を設置し、職員就業規則、教員評価、サバティカル等の諸課題に対する企画立案等の強化を行うとともに、全学的なサバティカル制度導入に伴うサバティカル支援経費を措置するなど、戦略的な資源配分を行っている。
- 教職員ポータルを設け、出勤簿や委員会記録等の認証が必要なシステムにグループウェアからワンクリックでアクセスできるようにするとともに、データ連係を行い、新たな勤務時間報告システムを開発し、事務処理の迅速化に努めている。
- 中期計画で掲げている、男女共同参画に配慮し、女性の採用・登用の拡大を図ることについては、女性教職員の割合は増加しているものの、採用・登用の促進に向けた取組の強化が期待される。
- 中期計画で掲げている、国際化に配慮し、外国人教員の採用を促進することについては、採用の促進に向けた取組の強化が期待される。

### 【評定】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(理由) 中期計画の記載 42 事項すべて（重要性等を勘案したウエイト反映済み）が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるほか、教職員評価の処遇に反映させている取組が行われている

こと等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16～19 年度の評価は以下のとおりであった。

**【評定】 中期目標の達成状況が非常に優れている**

(理由) 中期計画の記載 42 事項すべて(重要性等を勘案したウエイト反映済み)が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるほか、教職員評価の処遇への反映の取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

## **(2) 財務内容の改善に関する目標**

- ( ①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、  
③資産の運用管理の改善 )

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 外部資金獲得の業績評価を含む教員評価の実施及び処遇への反映、岩手大学知的財産ポリシーに基づく実施補償金及び研究室への研究費還元、科学研究費補助金の申請状況に応じたインセンティブ経費の拡充等の取組により、平成 21 年度における共同研究、受託研究及び寄附金の受入額は 8 億 330 万円(対平成 15 年度比 1 億 8,010 万円増)となっている。
- 暖房運転の短縮等により重油使用量を節減し、毎月水道使用量の監視により水道使用料を節減したほか、光熱水使用状況を学内ウェブサイトに掲示するなど、一般管理費の抑制と省資源意識の涵養に努めるとともに、構内樹木の伐採業務を職員が行い、年間約 150 万円を節減するなど、経費節減のための取組を行っている。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

**【評定】 中期目標の達成状況が良好である**

(理由) 中期計画の記載 12 事項すべて(重要性等を勘案したウエイト反映済み)が「中期計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16～19 年度の評価は以下のとおりであった。

**【評定】 中期目標の達成状況が良好である**

(理由) 中期計画の記載 12 事項すべて(重要性等を勘案したウエイト反映済み)が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

### **(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

( ①評価の充実、②情報公開等の推進 )

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- カナダの大学教員に委嘱し外部評価を実施し、国際的な視点を取り入れるとともに、大学情報データベースシステムに教員評価システムを組み込んだデータベースを構築し、法人評価業務への活用や、評価室に専任教員を配置するなど、恒常的な評価体制の整備を図っている。
- 民間テレビ放送局との共同制作による岩手大学情報発信番組「ガンダイニング」を放送するとともに、大学のウェブサイトへアップし、いつでも情報提供を可能とするなど、地域社会に情報発信を行っている。

#### **【評定】 中期目標の達成状況が**良好**である**

(理由) 中期計画の記載 7 事項すべて (重要性等を勘案したウエイト反映済み) が「中期計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16～19 年度の評価は以下のとおりであった。

#### **【評定】 中期目標の達成状況が**良好**である**

(理由) 中期計画の記載 7 事項すべて (重要性等を勘案したウエイト反映済み) が「中期計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

### **(4) その他業務運営に関する重要目標**

( ①施設設備の整備・活用等、②安全管理 )

平成 16～21 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「岩手大学における施設の戦略的整備方針」に基づき、総合教育研究棟等の改修工事を実施したほか、工学部構内に盛岡市産学官連携研究センター (コラボ MIU) を設置するなど、産学連携・地域連携機能を集約し、全学的施設の有効活用及び教育研究活動の活性化を図るとともに、附属中学校の改修を行い、耐震強化等の安全対策を図るなど、キャンパスマスタープランに基づいた計画的な整備を行っている。
- 環境マネジメント学生委員会と環境マネジメント推進室の協働による省エネルギー、省資源の啓発活動及び環境保全活動の結果、全国青年環境連盟 (エコ・リーグ) の Campus Climate Challenge 実行委員会による大学の環境対策を点数化したランキング「エコ大学ランキング」で平成 21 年度に全国国公立大学総合 1 位を獲得している。

- 「不正防止等対応マニュアル」について周知するとともに、構成員に対する研究費不正使用防止のさらなる徹底及び意識の向上を図るため、「会計ルールリーフレット”ちょっと待って”」及び「よくある質問 (FAQ)」を作成し、ウェブサイト掲載等により周知徹底を図るなど、研究費等の不正使用の防止に努めている。
- 東京都内の中小企業の技術力向上のために「ものづくり夜間大学」を開講し、企業への訪問技術相談等の連携強化に努めるとともに、いわてマイスター、エコリーダー及び防災リーダー、地域農業の発展のための「いわてアグリフロンティアスクール」を継続的に実施するなど、地域社会の要請等を考慮した取組を行っている。
- 大学周辺の幼稚園から小学校、中学校、高等学校、専門学校の校長と大学学長等が一堂に会する交流会議として「岩手県幼小中高大専ESDサミット」を開催し、岩手県に培われてきた思いやりと共生の価値観に立って、公私立大学を超えた岩手の教育についての連携・協力を図っている。

**【評定】 中期目標の達成状況が良好である**

(理由) 中期計画の記載 12 事項すべて (重要性等を勘案したウエイト反映済み) が「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価は以下のとおりであった。

**【評定】 中期目標の達成状況が良好である**

(理由) 中期計画の記載 11 事項すべてが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。